

「彼岸花に恋い焦がれて」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ 2学期の始業式で伝えたかったこと

1学期終業式は全校放送でしたが、このたびの始業式は空調の調子がよいため、講堂で実施できることになりました。なんと言っても皆さんの顔が見られましたし、さらにスクリーンいっぱい花を投影した瞬間に沸き上がったどよめきに、「対面で良かった」と思った私です。いつも素敵な反応をありがとうございます。

2学期の始業式にあたり、皆さんにまずはお礼を言いたいと思います。誰1人、生命を落とすことなく今日を迎えてくれてありがとう。とても嬉しいです。いつも僕はお願いしていますね。「自分の生命と他人の生命を大切にしてください」と。お願いを聞いてくれて、こうして会えて本当に嬉しいです。ありがとう。

1学期の終わりからほぼ40日が経過しました。あの日と少し違う自分を感じていますか。学習面で「成長した」という人もいるかもしれません。部活動の技術面で「成長した」人もいるかもしれません。また、これまでに縁のなかったことに触れて、「自分の新たな一面を発見できた」という人もいるかもしれません。すべてOKです。皆さんの素晴らしい夏に心から拍手を送ります。

一方、あまり変わらなかったな、という人もいるかもしれません。残念ながら、僕も同じです。この秋は成長できるよう、一緒に頑張りましょうね。



さて、今日は僕の好きな花について話をしようと思います。この花です。彼岸花、曼珠沙華とも言います。この花には大きな特徴があります。名前の通り、この花はお彼岸になると前触れもなく花を咲かせ、そしてお彼岸が終わる頃には忽然と姿を消します。まるで課された宿命にまっすぐに向き合うような花。『物事は自分の思惑通りにはいかない』という象徴のような花。その時が来れば、その日その場所でただ花を咲かせる。そういう花なんです。しかも花をひらく時、彼岸花は無防備にすべての葉を落とし、茎1本で伸び上がります。

孤独であろうと思います。心細いであろうと。でも、そんな素振りは少しも見せず、まっすぐに立ち、そこで艶やかな花を咲かせます。人も同じなんです。今は近くにお父さんなりお母さんなり、見守ってくれる人、自分が困っているときに助けてくれる人がいるかもしれません。でも、いつかは皆さんもこの彼岸花のように、自分1人で立たないといけないう日が来ます。この夏も悲しいことに親御さんを亡くされた生徒がいます。

ここで思い出してほしいのが『自重自治』です。もちろん違う生き方もあります。なりゆきまかせで生き、他人の眼は気にしないので人からは「品がない」と言われ、「人に注意されたら改める」そんな生き方。でも、どうせなら格好よく生きませんか。自らの使命を重んじ、品性を保ち、自らの定めにより自らの行為を律する存在。自らのやるべきことに真摯に取り組み、自分がどのように見られているかを常に意識して行動できる存在。そんなふうになりたいと思いませんか。今、胸章、襟章をつけている人は心の中で自分自身に拍手ですね。

僕はそうでありたいと思うと同時に、皆さんにも「そうであってくれたら嬉しいな」と願っています。自分ひとり変えられない者が、自分の周りや日本、ましてや世界なんて変えられるとは思えないからです。

まもなくお彼岸です。もし道ばたにこの花を見つけたら、今日の僕の話思い出してくれると嬉しいです。

壇上にあがり、マイクを握るまで私は逡巡していました。学習について語るか、見送るか。しかし、「語るべき」と決断しなかった私を助けてくれたのは、次にマイクを持った自治会長でした。「皆さん、この後は待ちに待った課題・実力考査です。1年生は平常心、2年生は向上心、3年生は初心を大切に頑張りましょう」。

思わず拍手喝采してしまい、皆さんから笑われてしまいましたが偽らざる私の本心です。ありがとう。また、協議会議長は私の話の後、小声で「襟章つけてきて、よかったあ」と呟いていました。これも嬉しかったですね。さあ、秋です。今年も彼岸花を探さなくちゃ、そんな気分の私です。

